

# 海外農林業情報 No. 97

## 目次

【世界の食料需給の動向】北朝鮮が深刻な食料不足に——FAO と WFP の報告から…… 1

### 【世界の食料需給の動向】北朝鮮が深刻な食料不足に——FAO と WFP の報告から

FAO（国連食糧農業機関）と WFP（国連世界食糧計画）は 5 月 3 日、北朝鮮で 1010 万人が深刻な食料不足に直面していると発表しました（表 1）。これは両機関が 2018 年 11 月と今年 4 月に現地で行った調査に基づくもので、調査報告書は 45 ページにわたり、北朝鮮の農業・食料事情を詳細に伝えています。報告書の概要は次の通りです。

表 1 北朝鮮の食料不安人口（推定）

世帯の類型	食料消費水準が低い世帯の割合 (%) (2018 年 11 月および 2019 年 4 月の 対象サンプルの加重平均値)	2019 年の人口 (100 万人) 出典：CBS	推定される食料 不安人口 (100 万人)
政府配給依存世帯	43%	17.5	7.5
協同農場世帯	34%	7.7	2.6
計	40%	25.2	10.1

出典：“Democratic People’s Republic of Korea (DPRK): FAO/WFP joint rapid food security assessment”（FAO/WFP, 2019）より筆者和訳

2018/19 年度の生産量は過去 10 年で最も低い約 490 万トンと見込まれ、減産の要因として、干ばつや熱波、洪水による不作に加え、燃料や肥料などの農業投入材の不足が挙げられます。同国の輸入能力を勘案すると、不足する食料は 136 万トンにのぼると推定されます（表 2）。

国民の 7 割は政府の配給システムに食料を頼っていますが、今年 1 月～4 月の配給量は 1 日 1 人当たり 300g と報告されており、この時期としては過去最低水準となっています。報告書によると、配給に頼る世帯が受け取った食料は、2018 年 11 月の 1 人 1 日当たり 387g（1369kcal）から、今年 4 月には 306g（1080kcal）に落ち込んでおり、いずれも同国の最低必要エネルギー量（1800kcal）を大きく下回っています。一方、人口の 3 割を占める農家は、収穫後に割当分の食料を受け取っており、その水準は同じ期間に 553g（1957kcal）から 647g（2285kcal）に増加しています。全体的に見ると農家の方が安定して食料を受け

取れているように思われますが、実際には地域ごとにばらつきがあり、不作や自然災害に見舞われている地域では、状況はより深刻なものとなっています。

多くの世帯では食事の量や種類、回数が減っています。食事内容も、動物性たんぱく質が極めて少なく、コメやトウモロコシ、ジャガイモなどの炭水化物が中心です。特に栄養不良に陥りやすい幼児や妊婦、授乳中の女性への影響が懸念されます。

表2 北朝鮮の食料需給状況（2018年11月～2019年10月）

単位：1000トン

	コメ（精米換算）※1	トウモロコシ	小麦・大麦	その他穀物	ジャガイモ※2	大豆※3	計
国内供給量	1,378	1,876	57	198	499	162	4,170
主要シーズンの生産量	1,378	1,876		198	249	162	3,863
冬季／春季の生産量			57		250		307
利用計	1,942	2,710	244	198	499	162	5,755
食料利用	1,621	2,110	219	156	269	139	4,513
飼料利用		137			20		157
種子必要量	46	51	13	13	85	6	214
収穫後ロス	276	413	12	30	125	16	871
在庫増加	0	0	0	0	0	0	0
輸入必要量	564	834	187	0	0	0	1,585
予想される商業輸入							200
食料支援（受領または約束済み）							21
不足する食料							1,364

注：数値は四捨五入しているため、合計値と一致しないことがある。

※1 精米換算率は66%。※2 穀物換算のジャガイモ（換算率25%）を含む。※3 穀物換算の大豆（※1および※2の係数を使用）。

出典：“Democratic People’s Republic of Korea (DPRK): FAO/WFP joint rapid food security assessment”（FAO/WFP, 2019）より筆者和訳

報告書では、緊急対策として、多様性のある食料の配布、食料不足や異常気象の被害を受けた地域の優先付け、栄養改善プログラムの拡大や栄養強化食品の配布等を提言していま

す。また、農業分野に必要な対策として、夏季に向けた携帯型水ポンプの供与、病虫害防除のための農薬輸入、野菜の栽培時期を拓げるための設置しやすい温室の供与、高品質の野菜種子の供与などを挙げています。さらに、中長期的な支援として、栄養悪化の予防や減災能力の強化に向けた栄養・食料安全保障対策の実施、収穫を迅速に行うための輸送車や脱穀機の導入、貯蔵施設の改善や乾燥設備の導入などを提唱しています。

WFP は栄養不良に陥っている約 77 万人の女性と子どもを対象に栄養改善支援を行っており、保育園や病院、児童施設を通じて、栄養価の高い穀物や栄養強化ビスケットを配布しています。一方、FAO は 50 万以上の協同農場に対し、農業生産に必要な資材の提供を行うほか、農家の生計改善や気候変動へのレジリエンス構築を目指し、農業技術の移転を行っています。

<参考リンク>

After worst harvest in ten years, 10 million people in North Korea face imminent food shortages (FAO、5/3 付)

<http://www.fao.org/news/story/en/item/1192420/icode/>

FAO/WFP Joint Rapid Food Security Assessment - Democratic People's Republic of Korea (FAO/WFP, 2019)

<http://www.fao.org/documents/card/en/c/ca4447en>

(文責：森 麻衣子)

---

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空(から)メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。 E-mail アドレス：[deskb@jaicaf.or.jp](mailto:deskb@jaicaf.or.jp)  
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後 2 週間以内に届かない場合は、お手数ですが 03-5772-7880 (担当：森・西野) までお電話下さいませようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

**発行：(公社) 国際農林業協働協会 (JAICAF)**

**〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 10-39 赤坂 KSA ビル 3 階**